

辰野町第6次総合計画 基本構想 目標人口の見直しについて

令和7年10月1日

1 見直しの背景

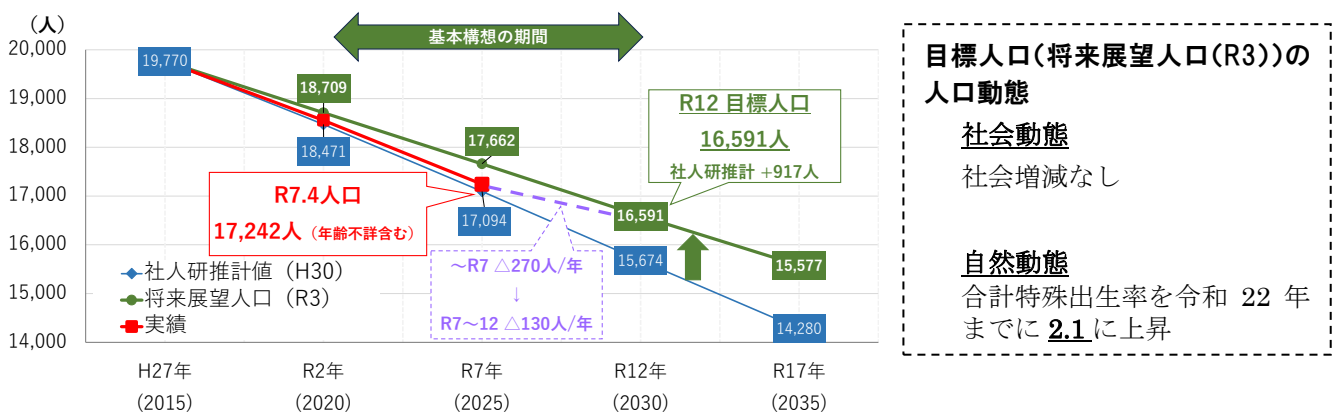
辰野町第6次総合計画の基本構想において、「辰野町人口ビジョン（平成29年再推計）」に基づく目標人口を示し、人口減少の抑制を目的とした様々な施策を講じてきたものの、結果として抑制の効果が得られていません。その現状を鑑み、後期基本計画の策定に合わせ、目標人口の見直しを行います。

2 現行の目標人口と実績

基本構想における目標人口は、将来展望人口（R3）の「令和12年に16,591人」（図表1 緑線）です。策定当時の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）による人口推計（平成30年）は「令和12年に15,674人」（図表1 青線）であり、10年間で約900人の人口減少抑制を目指していました。

令和7年4月時点の人口は17,242人（図表1 赤線）と、社人研推計（平成30年 図表1 青線）と概ね同じ推移をしており、目標人口（図表1 緑線）を下回っています。目標達成には、人口減少ペースを、令和7年までの約270人/年から、約130人/年（図表1 紫点線）に抑える必要があり、厳しい状況です。

図表1 辰野町 人口ビジョンと令和12年の目標人口



出典：総務省「国勢調査(令和2年)」、国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計(平成27年)」、辰野町「人口ビジョン(令和3年)」

3 本町の人口動態

社会動態は全体としては均衡していますが、若い世代をみると、15～19歳→20～24歳等の男女等はやや改善傾向がみられる一方で、20～24歳→30～34歳は減少傾向が強まっています。

図表2 子ども・若者（0～39歳）の純移動率¹

	男性			女性		
	H22→H27	H27→R2	R2→R7	H22→H27	H27→R2	R2→R7
0～4歳→5～9歳	0.057	0.048	0.128	0.000	0.043	0.042
5～9歳→10～14歳	-0.002	0.002	0.068	-0.002	0.019	0.070
10～14歳→15～19歳	-0.088	-0.060	0.007	-0.033	-0.075	-0.031
15～19歳→20～24歳	-0.319	-0.323	-0.224	-0.343	-0.361	-0.209
20～24歳→25～29歳	0.133	0.160	-0.232	-0.090	-0.030	-0.288
25～29歳→30～34歳	-0.065	-0.123	-0.187	0.030	-0.020	0.000
30～34歳→35～39歳	-0.018	0.007	0.055	-0.005	0.022	0.070
35～39歳→40～44歳	-0.012	0.002	0.036	-0.018	0.011	-0.019

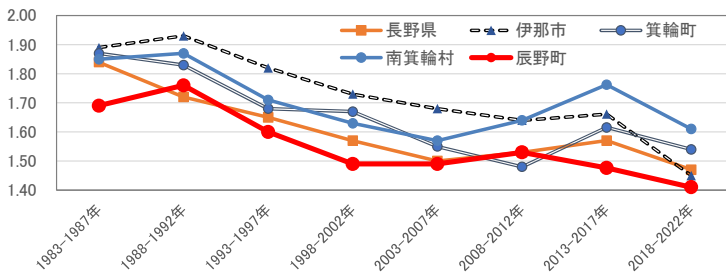
出典：総務省「国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）」、長野県「毎月人口異動調査」

※2020→2025は、自然動態を含む人口の増減率を純移動率とした

¹ ある年齢x歳から5年後の年齢x+5歳になるまでの5年間における純移動数を期首人口（ある年齢x歳の人口）で除した率

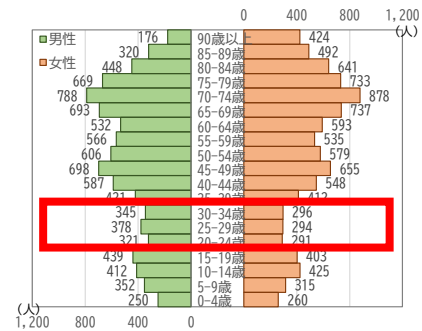
自然動態を見ると、合計特殊出生率は近隣に比べ低い水準で、かつ減少が続いています。また、人口ピラミッドは、20・30代が他の世代に比べ少なく、今後も低い出生数が続くことが見込まれます。

図表 3 合計特殊出生率の推移



出典：長野県「毎月人口異動調査」

図表 4 辰野町 人口ピラミッド



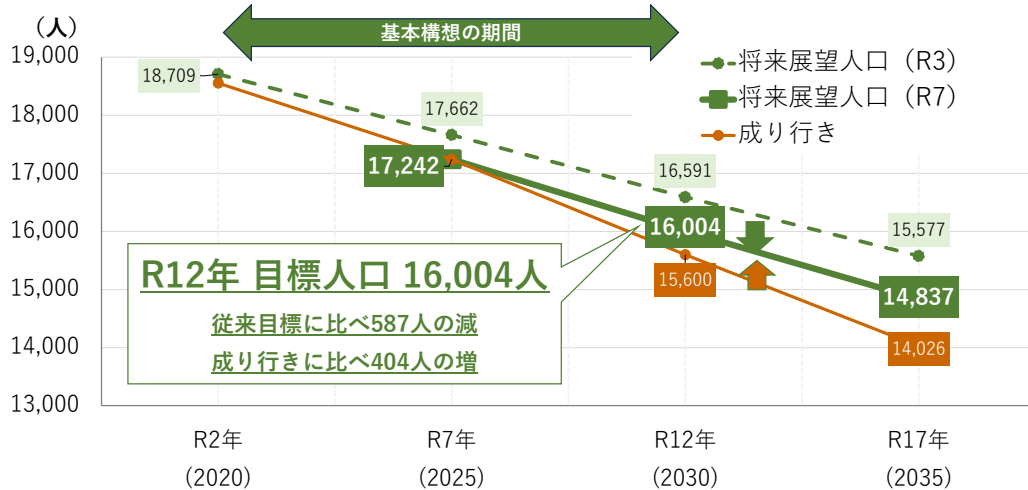
出典：総務省「国勢調査（令和2年）」

4 目標人口の見直し

以上の状況から、基本構想における目標人口の見直しを行います。

このまま若者世代の転出超過が続くと、目標人口（図表 5 緑点線）を大きく下回る推移（成り行き 図表 5 茶線）が見込まれますが、後期基本計画期間においては、子ども・若者を中心に、人口減少の抑制に注力し、「令和12年に16,004人」（将来展望人口（R7） 図表 5 緑実線）を目指します。20～30代のUIJターンによる転入や定住の促進、出産や子育てがしやすい環境づくりを進め、女性や若者に選ばれるまちづくりを行います。

図表 5 基本構想における目標人口の見直し



「成り行き」の人口動態

社会動態

およそ 100 人/年の社会減

自然動態

合計特殊出生率は **1.3** 前後

・転入・定住の促進
・出産・子育てしやすい環境づくり

新 目標人口(将来展望人口(R7))の人口動態

社会動態

およそ 40 人/年の社会減

自然動態

合計特殊出生率は **1.5** に上昇